

令和7年度 林業普及週間現地情報

森林管理課

八重山地域材利用推進に向けた取組（収穫編）

12月8日（月）

八重山農林水産振興センターでは、八重山地域における持続可能な森林資源の循環利用の実現および県営林における適切な森林管理を図るため、八重山地域材の利用推進を目的として、令和7年度は業務委託により次の2つの内容に取り組むこととしている。

1 地域材の生産・流通体制構築業務

石垣市白保県営林内のリュウキュウマツ林を対象に、素材生産を行う。その後、製材所まで運搬し、所定の厚さに製材を行った後に人工乾燥を実施する。人工乾燥後は、屋内空間で養生し、工期まで保管を行う。併せて1連の流れにおけるそれぞれのコストを計算し、最終的に本業務における乾燥板材の生産コストの試算を行う。

2 地域材利用推進に向けた製品製作業務

公共施設等に貸与を想定し八重山地域材を活用した木製品を製作する。

そのスタートとして令和7年12月4日～8日にかけてリュウキュウマツ人工林の収穫を行ったので報告する。場所は、石垣市白保地内の県営林であり、昭和37年にリュウキュウマツの植栽を行った64年生の林分である。今回はそのうちの約0.08ha（収穫対象木19本；立木材積約18m³）の収穫を実施した。

事前の毎木調査の結果、胸高直径は大きいものでは60cmに達している個体もあり、樹高も高いものでは20m程度と樹木の大きさとしては良好な成長を示していたが、密度が低いことからhaあたり材積は225m³/haと中程度であった。

収穫は、石垣市に本社を置く（株）佐藤林業が実施し、4,5日で伐倒と木寄せ・枝払い、枝状整理を行った。6日には集材と2mの長さで玉切りを行い、8日にかけて運搬を実施し、計4日間で作業を終了した（7日は日曜日で終日休み）。

また、石垣島内での収穫作業は頻繁にないことから、石垣市役所と竹富町役場の職員に声掛けを行い、5日には実際の収穫現場について案内を行った。参加者からは、実際に木が倒れる際の迫力や、ワイヤー等を駆使し狙った場所に木を倒す技術について感嘆の声が聞かれた。

今後は、収穫した材を製材所の土場で計測を行い、実際の丸太原木としての収

穫量を算出するとともに、マツの欠点である青変菌の被害を低減するべく速やかに製材・乾燥を行っていく。

なお、今回の収穫地については、資源の循環利用を進めるため、リュウキュウマツとテリハボクの苗木を植栽する計画である。



(上：収穫したリュウキュウマツ林、下：収穫現場の視察状況)
(報告者：八重山農林水産振興センター 比嘉、井口、砂川)